

人事部インタビュー（社会人基礎力について）

1. 株式会社NTTドコモ 人事部人事採用担当課長

【会社概要】

携帯電話事業を主とし、クレジットビジネス、無線LAN サービス、IP 電話事業サービスなどを提供

「チャレンジを繰り返せば、いつか必ず成功します。」

採用時に重視するポイントは、自分から成長していこうという姿勢を持っているかどうかです。ただ、実行力や創造力など、人によって得意とする力は違いますね。そこで、各々を伸ばす姿勢を学生時代に持っていたかどうかを重視します。どういう目標を立てて、チャレンジをしたか。成功、失敗以上に、チャレンジをしたかどうか、どういう努力をしたかを見ています。チャレンジを繰り返せばいつか必ず成功しますが、チャレンジをしなければ成功はありえないと考えているからです

「それぞれがリーダーシップを！」

みなさんは「リーダーシップ」という言葉をどのように考えていますか。「リーダー」と「リーダーシップ」は違います。「リーダー」は1人しかいませんが、「リーダーシップ」は、全員が発揮できるものです。私たちは、「リーダーシップ」の意味を「自らが主体的に動くことで周りを動かす力」だと考えています。入社後の若手研修では、グループ企業を巻き込んだ研修を行うなど、「リーダーシップ」の力を身につけるための人材育成に力を入れて取り組んでいます。もちろん仕事に必要な専門的な研修やビジネススキル育成、キャリア開発等の研修制度は充分にあります。しかし、将来を創り出すための主体性や課題に取り組む積極的な姿勢こそもっと大切なことであると考えているのです。

「『イラっとする場面』こそ成長の機会」

学生時代を振り返ってみると、「前に踏み出す力だけ」といったように何か1つは自分達自身も得意とする力を持っていたように感じます。企業に入ってから、不足しているチームワークを伸ばすために飲み会の幹事を任される、といったように社会人基礎力の3つの力をバランス良く持つように教育されました。バランス良く力をつけると、壁にぶつかっても乗り越えることができる。だからこそ、周りとはぶつかって「イラっとする場面」こそ成長の機会だと感じます。愚痴を言ったり互いに感情的になったまま終わるのではなく、現状を踏まえてどうやって進むか考え続ける。そこで初めて成長できるのだと思います。

「オリジナルの軸をもってみよう！」

学生の内に一つでも目標をたて、ハードルを決めてからそれを乗り越える経験をして欲しいです。失敗か成功か、結果だけに一喜一憂するのではなく、自分がどう取り組んだのか、そこから何を学んで、次にどのように生かしたいのかまで考えてみてください。そうすると自分の中の「軸」が明確になってきて、強みとして自覚できるようになります。自分の強みを社会でどう生かして貢献できるかを考えてみましょう。内定をとるための就職活動にしないで、しっかり自分と向きあい、オリジナリティを追

求してみることで、社会に出てからも成長していくことができます。自分のやりたい仕事を見つけるためにも、意識して「軸」を作ってみてください。

【東京女子大学現代文化学部2年】

今回インタビューに加え、普段一般公開されていないショールームの見学をさせていただきました。ここではドコモが目指す、10年、15年先のビジョンや、新サービス、未来の暮らしなどを覗くことができ、「ドコモ＝ケータイ」という普段のイメージとは少し違った世界を知ることができました。インタビューを通し、大切なのは就職活動のために、「飾り」として何かをするのではなく、大学生活の充実から培った社会人基礎力をもとに、その会社に就職して自分はどういう会社に変わっていきたいか、どのようなビジョンをもって働いていきたいのかを明確にすることだと実感しました。「イラッとするときに成長の機会」その言葉を胸に、嫌なことにも背を向けず充実した毎日を送ろうと心がけていきたいと思っています。

【首都大学東京都市教養学部3年】

今回のインタビューを通して、ドコモが未来を切り開く力を非常に重視していると感じました。携帯電話と私たちの未来を創り出していくことが使命であるドコモだからこそ、その力を大切にしているのだと思います。そのために必要な主体性や創造性、チームワークといった社会人基礎力を学生のうちに養うことが、社会に出てから自分の力を引き出すための土台になるのだと思いました。これからの未来を創るための仕事、それを担う人材であるためにも社会人基礎力を学生のうちに意識して行動していきたいと思っています。

【東京女子大学文理学部3年】

今回のインタビューに先だって、NTTドコモの目指す、未来へのプロジェクトや可能性について実際に体験させていただきました。その際、将来どんな高度な機器が開発されるか、自分でも考えてみたいと感じました。人事部の方のお話で印象的だった所は、自ら望んで成長していくことができる会社だという点です。行動することの楽しさを知り、自分のやりたい仕事を見つけ、出来ることが増える喜びという実感は是非、味わってみたいと思いました。また、若手の頃からアイデアを求められ、プロジェクトに積極的に携わっていけるという点も魅力的だなと感じました。どのような仕事があるのか、「もっと知りたい!」と興味が湧きました。

【東京大学工学部4年】

リーダーシップに関するお話や、グループ会社との連携など、様々な経験を積むことができる研修プログラムは聞くだけでワクワクしてしまいました。自分に今必要ものは何なのか?という問いに一人一人が真摯に向き合う。このプロセスをどれだけ大切にしているか、垣間見た気がします。インタビュー中に出た「学生時代には、社会人基礎力のうち何か一つでよいから勝負できるものを培って欲しい」という言葉も「足りない部分はこちらで伸ばす」という懐の深さの裏返しだと感じました。今後、自分としても成功、失敗以上に「なぜそうしたか?」という過程を意識して進んでいきたいと思っています。

2. 株式会社東芝 人事部人材採用センターセンター長

【会社概要】日本を代表する総合電機メーカー。半導体から原子力発電等の電力システムまで手がけ、やパソコン等のデジタル機器、家電製品の開発、商品化に取り組み、海外進出へも積極的な企業。環境活動にも従事。

「情熱と気概を持って取り組もう！」

東芝の求める人材のポイントは「情熱と気概」「アイデンティティ」「キャリアビジョンの明確化・価値観の共有」の3つです。そのためには、情熱があり、自身の考えをしっかりと、自分の言葉でしっかり伝えられることが重要です。また、「社会に出てどういうことをやってみたいか」、「自分はどうなりたいか」「社風や価値観の尺度が会社と合うかどうか」が、採用の際によく見るようにしています情熱気概を持ち、物事のプロセスや考え方を工夫しながら積極的に取り組んできた人はそれにリンクして自然と「社会人基礎力」が身についていると思います。

「多様性を大事にする企業づくり」

入社後の人材の育て方ですが、具体的に能力を伸ばすために何か特別な活動をするというよりは、とにかく日々のビジネスの中で社員が切磋琢磨することを重視しています。その結果、能力はきっちりと向上してきます。すなわち、能力は目的にならず、結果としてついてくると考えています。東芝は年齢、国籍、性別にとらわれない多様性を尊重する社風のもと、「共有する力」「思いやる力」「受容する力」を軸に据えています。例えば、実際に英語を多用した会議を行ったり、女性や障がい者、外国籍従業員などの働き方に目を向けた「多様性推進部」を設立したりと、多様性を活用する会社づくりを行っています。

「自分のすべてをフル活用」

私が今担当している人事の仕事では、各職場の考えをきちんと聞き、従業員一人ひとりの意思も尊重し、どのような人材を配置するかなど、公平な決断を必要とする場合があります。その一方、営業では、自ら自社の看板を背負って、粘り強くアピールし続ける行動力を求められる場合があります。また、技術職では、すぐに芽の出ない技術でも熱意を注ぎ、前に一步踏み出し、研究を続けることが必要とされます。どの職種に就いても、「社会人基礎力」で挙げられる能力を含め、自分の持つ様々な力を柔軟に使い、成長していくことが社会に出てからは必ず求められます。「社会人基礎力」に終わりはありません。社会に出てからも意識的に学び、経験することが成長に繋がるのです。

「仕事を楽しむ力＝社会人基礎力」

「社会人基礎力」とは「仕事を楽しむために必要な力」と言えます。そのような能力を持つためには、学生のうちにとにかく「今しかできないこと」に熱心に取り組むことが大事だと思います。また、将来自分がどのように働きたいのかというイメージを持つことも重要です。学生なのでももちろん学業に注力することも大事ですが、学業以外にも何かに目標を設定し、やり切るという姿勢で臨んでほしいと思います。それは東芝が求める「情熱を持った人材」という言葉ともリンクしています。

【中央大学文学部 4 年】

今回のインタビューを通じて学んだことは2つあります。1 つは学生の新卒採用をする際に求めている能力という点です。私は企業各社で活躍するために必要な能力というのがあるかと想像していましたが、実際は能力という点ではなく、物事を成し遂げる上でのプロセスやその過程での想いに注目しているという点が意外でした。2 つ目に働く上で伸ばす能力というのは基本的に日々のビジネスで学ぶものであり、また社会人で活躍するにあたって必要な能力は社会人基礎力でいえばすべてであり、特に限定されていないということが分かりました。社会人として働く前にもう一度学生生活を見直す良い経験となりました。

【東京女子大学文理学部 3 年】

東芝の人事部の方々のお話を聞いて夢と情熱」をもって物事に取り組もうという意識が高まりました。「仕事は楽しいものです」とお聞きして、社会に出ることに対する不安よりも、期待の方が上回りました。今自分にできること、大学の勉強、人との出会い、コミュニケーション、ささいなことも経験として蓄積していきたいです。小さな目標を持ち、大きな夢を掲げ、充実した生活を送ろうと思います。就職活動を目前にして、このインタビューに参加できたことで、社会人になる準備だけでなく、自分の引き出しを増やす努力もしようと思いました。やる気とポジティブな気持ちで就職活動をスタートできそうです。

【東京女子大学現代文化学部 2 年】

2 年生の私にとって実際に企業に足を運び、人事の方とお話ができることは普段なかなかできないことの貴重な体験でした。今回のインタビューを通して、いかに自分の考えをしっかりと持ち、その考えを軸に積極的に行動することが大切であるかということを知ることが出来ました。残りの大学生活で「社会人基礎力」と呼ばれる 1 つ 1 つのスキルを伸ばしていくためにも、私自身「情熱」を持って毎日を過ごし、自らのキャリアビジョンを明確化していけるように心がけたいと思いました。

3. 富士通株式会社 人事部人材採用センターセンター長

【会社概要】

通信システム、情報処理システムおよび電子デバイスの製造、販売、ならびにこれらに関するサービスの提供。

「普段の生活の中に問題意識を持とう」

仕事に求められる能力は職種によって変化する部分もありますので一言で言えることではありません。個人の能力は無限にあって大きな可能性を秘めています。それらをうまく引き出せるよう心がけています。富士通の社員は、世の中の他の企業の社員に比べると「主体性」と「ストレスコントロール力」を持った社員が多いと思います。

富士通は IT を駆使することで社会インフラを担っていくという非常に重要な役割を持っています。また、IT というビジネスツールはスピーディーに進化し続けているので、日頃の生活の中のあらゆる場面に問題意識を持ち、常に自分から問題に対し先を見越して積極的に働きかけていくことが必要だと思い

ます。

「学生から社会人への転換に活用するのが社会人基礎力」

富士通では昨年度から、ATT (Action, Thinking, Teamwork) チャレンジに取り組んでおり、内定から入社2年目の終わりまで、じっくりと社会人基礎力を育てています。この約3年間に社会人基礎力は計9回チェックしていきます。一見チェックが多いように思いますが、仕事をしていくうちに自分の必要な能力が変わっていき、成長していきます。学生の声を聞くと、入社してからは「働きかけ力」「傾聴力」が自分に足りないと感じる人が多いようです。

色々な立場の人を含めたチームをまとめ、一つの目標に向かう仕事ではこの二つの力はかせません。学生は学生生活の中でさまざまな力を身につけてきています。「働く」とは、この力を仕事での力に転換し、会社で自己実現をすることと言えるでしょう。

「社会人＝正解・不正解のない世界」

富士通に18年間勤務し、人事担当として学生の採用、社内の新制度の検討、時には構造改革に関わる仕事も行ってきました。年を重ねるごとに部下が増えていくため、自分で動くのではなく部下に指示してまとめるための「働きかけ力」、部下の状況を把握する「傾聴力」が必要になるように感じます。

また、仕事が積層的になるので、きちんと計画を立てて仕事を進めなければなりません。すごく基本的なことですが、自分がやらなければいけない仕事を1枚の紙に書き出し、俯瞰して優先順位を付けながら仕事をするように心がけています。

私自身は入社して23年間、SE（システムエンジニア）、営業部門の人事、またグループ会社の経営戦略などを担当してきました。富士通のシステム開発プロジェクトは、ビジネスパートナーの企業の社員の方を含めてチームを組み、1年間ほどの時間をかけて作ることが多いです。お客様は、プロジェクト開始段階では具体的なビジョンが明確になっていない場合もありコミュニケーションの中でお客様が本当に望んでいることをうまく引き出していく能力が必要です。

また、私自身は、あるグループ会社において、プロジェクトにおけるSEの方々の役割を定義し、その役割に応じて各人が自分のスキルを向上させていける仕組みを作りました。当初は反発もありましたが、SEの方々と丁寧にコミュニケーションを取るうちに、役割分担をしてプロジェクトを進めるやり方が浸透し、プロジェクトの損失も大幅に減らすことができました。社会人の仕事は、簡単に「正解」「不正解」がないものがほとんど。どうやって解決策を見いだしていくか、工夫のしがいがあります。

「こざわりと情熱を持って学生生活を送ろう」

学生時代から視野を広く持ち、たくさんの人と接してほしいです。また、社会人基礎力も一つの指標として、意識して過ごすといいですね。情熱を持って物事に取り組むことで、自分の柱を作り、強みや弱みを理解することができます。それは自信につながります。学生生活の間に、やりたいこと、好きなことをしっかりやってください。そこでこざわりを見つけ主体性を伸ばしていくと良いと思います。失敗や反省は次に生きるので、一生懸命もがいて自分を磨いてください。

【法政大学経営学部2年】

学生生活の中で見ると足りないと思われる自分の基礎力と、社会人になってからでないと気がつくことの出来ない基礎力があるということがわかりました。社会人基礎力は常に意識し、自分に正直に正しく自己評価していくことが大切で、どの基礎力が低いからダメという訳ではありません。なぜその基礎力がないのか、どうすればその能力が備わるだろうかと考えるようにしたいと思います。

【中央大学文学部4年】

社会人基礎力をベースに内定者に自分の能力について考えるという実践を聞いたのは大きな収穫でした。私も大学卒業まであと半年であり、もう一度自分の能力を見直し、今後の活動につなげていきたいという思いが強くなりました。

また、「学生時代は能力は無意識的に身につけていくものだが、社会人は意識的に能力を伸ばしたり、補っていかなくてはならない」という言葉をいただいて、社会人と学生の違いについても理解が深まりました。能力を高める必要性が出てくるのはやはり必然なことで、それが仕事のやりがいにも結びついてくるというように考えました。ありがとうございました。

【東京大学工学部3年】

「大学と会社とでは求められるものが違う。会社に入ると基礎力の定義自体が変わる」——少し考えると至極当たり前のことですが、この言葉が今回最も印象に残りました。学生時代にサークルをまとめ上げた、だから自分には働きかけ力がある、会社に入ってもうまくやっていける——こういった論理が成り立たないことに危うさを感じます。一方で、実際に仕事で必要な社会人基礎力は入社して仕事をこなしていく中で伸ばせばよく、学生時代は意識しなくても必要な能力を学んでいるので、社会人基礎力は自己分析の指標として使えばよい、というお話もあり、その点では少し安心もしました。やはりご自身も学生から社会人への移行を経験されている方からのお話には説得力があり、背筋が伸びる思いがしました。

【東京女子大学文理学部3年】

社会人基礎力の導入に積極的な富士通株式会社での、社員の育成期に要所、要所に設けられているセルフチェックが効果的だと思いました。日々頑張っている人たちにとって、自分の成長を感じる時、目に見える指標があればすごく安心します。大学の授業で行った振り返り活動を思い出しました。社会のシステムを担う会社だからこそ、大きなプレッシャーの中で仕事をする覚悟、大勢でプロジェクトを進める際にチームの仲間に働きかける力など人間の基礎力の大切さを感じました。自分の働きが社会を動かす基盤になるというダイナミックな仕事に驚嘆しました。残りの大学生活でどれだけ意識的に成長できるか、頑張ってみようと思います。

4. 本田技研工業株式会社 人事部採用グループリーダー

【会社概要】

二輪車・四輪車・汎用製品の領域で、常に時代の要請に応える事業、人々がモビリティに抱く夢を実現する商品を提供。独創的な新技術・商品開発を重視し、より高い品質と安全性、地球環境に配慮した事業活動の取り組み。

「自分はどうしたいのか？」

一人ひとりの主体性（志）を前提とし、「これがやりたい！」「やってやるんだ！」と自ら働きかけることが重要です。志を実行に移すための考えを巡らせると、一人では達成できないことが多いので自ずと他人にも働きかける必要がでてきます。すなわち社会人基礎力における「主体性」を中心として、自然と【前に踏み出す力】⇒【考え抜く力】⇒【チームで働く力】の順で備わっていくものが、Honda の社会人基礎力と考えています。社内にはチームワークが自然に生まれる風土があります。学生とお会いするときはこれまでどのような想いをもって人生を生きてきたかという「志」に着目すると同時に、創造的思考力・状況適応力を持った人間であるかどうかというところを見えています。

「二階に上げて梯子を外す。人は任されやり遂げることで成長していく。」

入社2、3年になり責任のある仕事を任されるとその人はぐっと成長します。「二階に上げて梯子を外す」というのは、高いレベルの仕事を任せ且つやり遂げる責任を負わせることでその人の能力を最大限に引き出そうとするものです。責任のある仕事を任されれば悩むこともありますが、考え抜いたり、先輩からのアドバイスをもらったりしながら仕事をやり遂げます。そして、自分の仕事に若手の時から責任を持ち、他責にしません。社内全体が年齢や役職に関係なく意見を言い合える社風で、それぞれが責任をもって発言をします。そういったフラットな関係であるからこそ切磋琢磨し社員は育ち、新しいものを生み出すことが出来るのです。

「目の前のことをやり抜く」

狭い敷地の中で大型車を生産するために考え抜かれた埼玉製作所の生産ラインの話や、海外の新工場立ち上げのエピソード、日々の仕事の話聞かせていただきました。話の中で共通することはやはり「志」という言葉にあります。自分自身をとことん突き詰めて考え抜き、「出来ない理由」よりも「どうやれば出来るか」という志の実現に向けたスピリットを持つていくことが重要です。この共通項はどの職種でも共通であり、目の前のことをとことんやり抜くということはHondaらしさとも言えるのではないのでしょうか。「志」があって初めてビジネスが達成でき、またその結果として社会人基礎力の能力は伸びていきます。

「どんな“生きざま”にしたいのか」

学生時代は学生の本分である学業に力を入れたり、学生時代しかできないことに取り組んだりしてほしいです。起こった出来事を他人のせいにならず、自分のこととして受け止めることが重要です。また、就職活動という点に特化するならば、憧れや周りの評判から企業を選ぶのではなく、「自分はどのように生きたいのか」ということをしっかり考えたうえで活躍できるフィールドを探すことが重要な点です。自己分析を中心に自分と徹底的に向き合ったうえで就職活動ができれば「志」をもって社会で活躍でき、

自分の生き方を全うできます。社会人基礎力について言えば、社会人基礎力の 12 の要素は、今できることを最大限にやろうと実践することで自然と身に付いているものなので、意識するよりも自分の志に向かって突き進んでいって欲しいと思います。

【中央大学文学部 4 年】

Honda らしさを今回のインタビューで感じ取ることができました。特に世界のモビリティを牽引する一流企業としての仕事のこだわりが伝わってきました。今回お話いただいたエピソードの数々は、「日本の企業が世界の経済にいかに関与しているか」ということを考える契機になりましたし、世界を代表する Honda は高い技術力はもちろん、取り組みに対する熱い情熱を持っていることも分かりました。私はあと半年で社会人になりますが、働く上で自分が選んだ道に誇りを持って活動していきたいと思いません。

【東京女子大学文理学部 3 年】

「Honda」といえば「車」と考えていた私ですが、今回のインタビューを終えて「志」・「生きざま」という印象がとても強く刻み込まれました。日々の私の生活を見直してみると、「～したい」・「～しよう」とただ思っているだけで、それを今までいくつ実行してきたのかと、自分の考えの甘さや、「志」という文字が私の中に存在していなかったということに反省しました。「社会人基礎力」をテーマとしたインタビューで、「社会人基礎力」の重要性を改めて感じることはできた場ではあったのですが、それと同時に「社会人基礎力」があるだけでは自分の中にある一本の筋を保つことができず、その中に自分の大切にしている「志」があるからこそ、仕事に誇りを持って実行しようといつまでも努力することで成長できるのだと感じました。そんな「志」を強く持った人間になれるよう、自分と向き合って少しずつでも答えを見つけていきたいと思いません。

【法政大学経営学部 2 年】

インタビューの中で「Honda はダイナミックに働ける会社」と伺いました。ダイナミックに働けるということには、会社の仕組み、社風が平等なことなどが理由にあげられると思いますが、ダイナミックに働くにはその環境を使い切る能力が必要です。主体的に動くこと、ともなう必要となる能力を身につけることはもちろん、もっと根本的な部分で自分を突き動かす動機、熱い情熱、志をもってこそ、社会人基礎力が発揮され、社会に貢献する仕事ができるのだと思いました。もう一度自分が社会で何をしたいのか、どのような仕事なら自分の情熱を注ぎ社会に貢献できるのか、これからじっくり考えていきたいです。

5. 東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本） 人事部課長採用グループリーダー

【会社概要】

主要の「鉄道事業」の他、エキナカビジネスやショッピングセンター、ホテル等の「生活サービス事業」、電子マネーを取り入れた「Suica 事業」など幅広く行っている。

「プロセスが肝心」

採用時に重視するポイントは、学生の時にどんな活動をしてきたか、どう過ごしてきたかという点です。

「学生時代何をしてきたか」という話から、学生一人一人を知るようにしています。特にそのプロセスにおいて、主体性はあったかどうか、実行力はあったかどうかという点を掘り下げて聞くようにしています。ただし「主体性+実行力=行動力がある人」というわけではありません。ただ闇雲にアクションを起こすのではなく、どういうこだわりを持って取り組んできたのかどんな失敗や挫折にも臆することなく耐え抜き行動しきったか、という点をよく聞くようにしています。

「社員の『課題発見力』が、確実な業務遂行と新規事業開拓を実現させる力となる」

JR 東日本は、いうまでもなく、お客さまを運ぶ鉄道会社です。そこにはまず、安全、正確に業務を遂行するという重要課題があります。この課題を達成し続けるために、何気ない日常に隠れている課題を発見する能力が、社員一人一人に求められています。そのため、入社後の社員には、業務上の課題を考え、改善する取組みを通じて、「課題発見力」の育成を図っています。しかしながら、「課題発見力」が求められる理由はこれだけではありません。Suica や駅における商業施設などの新規事業の開拓が可能になったのは、日々の業務を遂行する力に加え、長いスパンで課題を発見する能力が社員に備わっていたからにほかなりません。

「周囲を巻き込む為には、人の話を聞くことも大切です」

実際に仕事をしていく上で、自分だけでなく周囲を巻き込みながら新たなことにチャレンジする、「巻き込む、力」（働きかけ力）が必要になってきます。

この「巻き込む力」において、他部署の人を巻き込むことは難しく、入社後に試行錯誤を通じて習得する人が多いと感じています。一方でその土台となる基礎力として、発信力も大事ですが、傾聴力も必要だと思います。相手の話を丁寧に聞き活発に意見交換を続けることによって、「巻き込む力」が培われていくのではないのでしょうか。

「常に好奇心をもって、自分だけの何かに打ち込んでほしい」

仕事においても普段の生活においても、好奇心を持つことは重要です。毎日のルーティンワークであったとしても、常に好奇心を持って取り組むことによって、同様の仕事でも密度の濃い経験をすることができるのです。学生の間は好奇心を持って、「自分だけの何か」に一つでもいいのでやりきってほしい。また近年新聞を読まない学生が思いのほか増えていると感じています。新聞を読むことによって社会を知るだけでなく、社会そのものに対してもっと好奇心を持って下さい。

【上智大学法学部3年】

JR 東日本は、安全・正確に人や物を運ぶことによって我々の生活を支えているほか、Suica やエキナ

力などのサービスで社会そのものに多大な変化をもたらしていることを改めて感じました。これらの企業活動を支えているのは、社員の主体性・実行力や課題発見能力等の力であると知り、人事の方がこうした能力を備えている学生を採用したいと考えておられることを切に感じました。また、事業を進める際には多くの人の協力を得なければならない会社であるだけに、発信力や傾聴力、規律性など、組織内・組織間で協力して物事を進める力が非常に重視されるというお話には大変納得しました。Suica等新規サービス開拓のお話を聞いて、私も日々のルーティンワークに埋もれてしまうことなく、課題を発見し創造力が発揮できるよう、常に好奇心をもてる人でありたいと感じました。

【青山学院大学大学院国際マネジメント研究科】

社会人基礎力の全般的なお話の中でも「行動力」を強調されているのが大変印象に残りました「何をしたか」という結果ではなく「どうして・なぜそれを実行したのか」という点に注目されているというお話から、主体性を持って自ら行動するだけでなく、自ら「考え抜く力」が重要なのだと考えさせられました。また、結果が同様でも人によってプロセスや考え方が異なり「それぞれにオリジナリティがある」と言われていました。結果ばかりに固執せず、自らがいかに考え、どの部分にオリジナリティがあるのかを捉える必要があると感じました。

学生へのメッセージでは「新聞を読んで欲しい」と言われ、その理由として社会に興味を持ち、社会を知って欲しいとおっしゃっていました。学生は得てして記事を読むことが目的になってしまいがちですが、社会を知り興味を持つ為のツールとして新聞を別の側面から捉えることができるのだと感じました。新聞に苦手意識を持っている学生にも、是非この考えを知り積極的に時事問題に触れて欲しいと思いました。

【東京女子大学現代文化学部3年】

社会人基礎力をベースとした質問の回答にとどまらず、赤池さんご自身の学生時代のエピソードから会社に入って任された具体的な業務の内容まで幅広く伺えたので、とてもリアルな社会人の本音が聞けたように思えてとても満足しました。なかでも印象に残ったのが、「JRという会社は会社をチームワークで動かして総合力で進んでいくんですよ。」という言葉でした。私は今までひとりで物事を進めていけることこそ社会人に求められる能力だと思っていましたが、独りよがりで他人と”競争”するのではなく”協創”していく働き方も重要な社会人の要素なのかと感じられたのです。その考え方はこれから先の就職活動に向けてのよいヒントになったと思います。

6. 楽天株式会社 人事部人事企画課課長

【会社概要】

「世界一のインターネット・サービス企業」を目指して、「日本を、元気に。世界を、元気に。」というビジョンのもとで、楽天市場をはじめとする多岐にわたる事業を展開している。

「求めるのは“足腰の強さ”」

今の時代、企業は「即戦力」を持つ学生を求めるという話をよく耳にしますが実際には専門的な技術・知識ではなく、ものの考え方やことに対処する力、つまり「社会人基礎力」の下地があるかどうかを採用の際には重視します。さらに社会人基礎力の中でも「主体性」や「実行力」を特に重視視しています。サークルやアルバイト、趣味の中での自分にまつわるエピソードを元に、社会人基礎力が見え隠れしていることを発見しアプローチしてみるとよいでしょう。

「新入社員の土台は“気付き”と“行動力”。」

入社したばかりの段階でも、人はある程度スキルは身につけているもので、最初の差はまだ小さいのですが、その後の取り組み方によってどんどん伸びていく人と分かれ、差が開いていきます。良い意味で「がめつい」人はどんどん成長していきますね。新入社員の最初の仕事は自分の思い描いていた仕事とはかけ離れている場合が多いと思いますが、そこで「もっとこうなりたい」と思う気持ちを持って仕事に取り組むことで（＝主体性）、失敗も含め様々な経験値が蓄積され、出来るアウトプットの量がまったく違ってきます。自分の取り組んでいる仕事の中から気づきを見出し（＝課題発見力）、自ら進んで変化させていくことが、荒波の中でも「これだ」というものを見極める力を養っていくことになる、と意識しておいてほしいです。

「進んで失敗して怒られる」

社会人基礎力の、基礎の基礎はもう学生時代のうちにできていないといけないと思います。その中で欠けているものがあるかもしれませんが、新入社員でスタートして、それぞれのフェーズで磨かれていって、遅くとも5年以内に身につけているのではないかなと思います。私はたまたま先輩との良い「縁」があったので、先輩から教えられたことを自分なりに応用しながら社会人基礎力を身に付けられたと思います。そういうことは30歳になる前までにできていないと、そこから先が辛いですね。

「縁」というのは、誤解を恐れずに言えば、何もしていなくても転がり込んでくるものです。ただ、私が人と違ったかもしれないのは、「縁」とか「運」に気付かない人間ではなかったということです。例えば、年の近い人間と働いているときに頼みごとをされたとします。そういう時に、自然と手が挙がり（＝主体性実行力）仕事をこなして成長するそれは、そういう「縁」や「運」があったのだと思います。

「なにも考えない人」

「なにも考えない人はダメ」だと思います。逆に言うと、何か考える人は、貪欲であると思いますし、その貪欲さを買いたいですね。もっと良くなりた。何が問題なのか？常々問題意識を持って、改善策を考え、結論を出そうとする人は貪欲であると思います。現状に満足することなく、目標達成しようとする向上心が動機となって、「考え続ける」ことにつながるからですね。そういった姿勢を持ち続けることで、周囲から期待を得、より自分の可能性や挑戦の場を拡大することができると思います。

上司になり、部下を持ち、人事として採用に携わるときに、自らの経験も判断基準となります。日々、未知のことが起こる中で、自分の過去の経験と照らし合わせて判断を下すのが可能なこともあります。ここまでは当たり前のことです。自分の経験（過去見聞きしたもの、持っている情報）だけで判断することは出来ません。考え続け、更新し続けることでより精選された良質な判断を出すのが重要だと思います。世の中にまだ無いことで、世の中にためになるものやサービスを作る仕事をするのが楽天です。まさしく、「考え続けて、新しく発想する」ことが求められているわけです。

【東京女子大学現代文化学部 3 年】

社会に出る前に社会人基礎力を備えていなければならない、と焦っていた私でしたが今回のインタビューを通じて決してそうではないということが聞けて安心しました。大切なのは、自分に足りていない社会人基礎力を始めとする入社してから学ぶ専門的な技術や知識という教えをもらったときに自分の中にすんなりと吸収することができる柔軟性ということです。それにより常に成長し発展していく自分を信じたいと思いました。これから就職活動やそれ以外に関しても常に柔軟性をもって伸びゆく自分でいようとモチベーションが上がったよい時間でした。

【東京女子大学現代文化学部 2 年】

今まで私は、卒業後に社会人として働いていくことにはまだ分厚い隔たりがあるかのように考えていました。今回のインタビューでは、「成長していける人」についてお話を聞くことが出来、それはどんなに立場が変化しても変わらないことと捉えることが出来ました。三枝さんが「ダメなのは何も考えないで生きていることだね。」とおっしゃっていた言葉がぐさっとくる程、今の自分はそうであったため、まずは「小さくても目標を作り」「気づき」そして「行動する」というシンプルなステップを着実に実感出来るように日々意識して過ごしていこうと思うようになりました。

【名古屋大学法学部 3 年】

三枝さんのお話によれば、社会人基礎力は入社時にある程度身につけている、または自分で学んで身につけるべきものだそうです。入社後研修で行うのは仕事に必要な知識などの、プラスアルファの部分だといいます。このような力は会社が教えてくれるのだらうという私の甘い予期は幸運にも裏切られることとなりました。企業は知識のある人間は求めている。自分で考えて動ける人間を求めている。今回のインタビューを集約するとこのようになるのではないかと思います。就活本を開けば載っているような言葉ですが、それだけ普遍性のある言葉であり、それがまた私の抱いていた予期の甘さを際立たせてくれます。

【横浜国立大学経営学部 3 年】

「そういう時は、自分の過去の経験に照らし合わせます。」人を育てたり、判断するときは、どういう判断軸を持っていますか？ という質問に対しての答えです。確かに、現在持ち合わせている情報を以て判断することは多いです。その情報とは、過去の蓄積でもあります。面接でも、「あなたはこれまでにどのような経験をし、何を学んだのか？」と問われることが多いです。一つ一つの経験や学びをデータベースとして、反省し、ストックさせておくことの重要性を改めて考えさせられました。